

株式会社日新(9066) 2019年3月期第2四半期 決算説明会

~売上は増収、利益は下期回復基調~

2018年11月22日(木)



I. 2019年3月期 第2四半期実績
~物量増加で増収も、一過性費用等で減益~

P.3

II. 2019年3月期 通期計画
~下期は回復基調~

P.9

III. 中期経営計画の進捗状況
~計画値 営業利益74億円を堅持~

P.15

IV. (特集)鉄道事業
~ユーラシアの鉄道輸送サービス~

P.20

2019年3月期第2四半期実績

～物量増加で増収も、一過性費用等で減益～



2019年3月期 第2四半期決算サマリー

(単位: 百万円)	2018年3月期 第2四半期	2019年3月期 第2四半期					
	実績	期初計画 (5月9日発表)	実績 (11月6日発表)	計画比		前期比	
				(%)	(額)	(%)	(額)
売上高	107,735	111,000	109,464	98.6%	▲1,536	101.6%	1,729
営業利益	3,248	3,200	2,824	88.3%	▲376	86.9%	▲424
営業利益率	3.0%	2.9%	2.6%	▲0.3P	-	▲0.4P	-
経常利益	3,549	3,450	3,262	94.6%	▲188	91.9%	▲286
当期純利益	3,223※	2,150	2,203	102.5%	53	68.4%	▲1,019

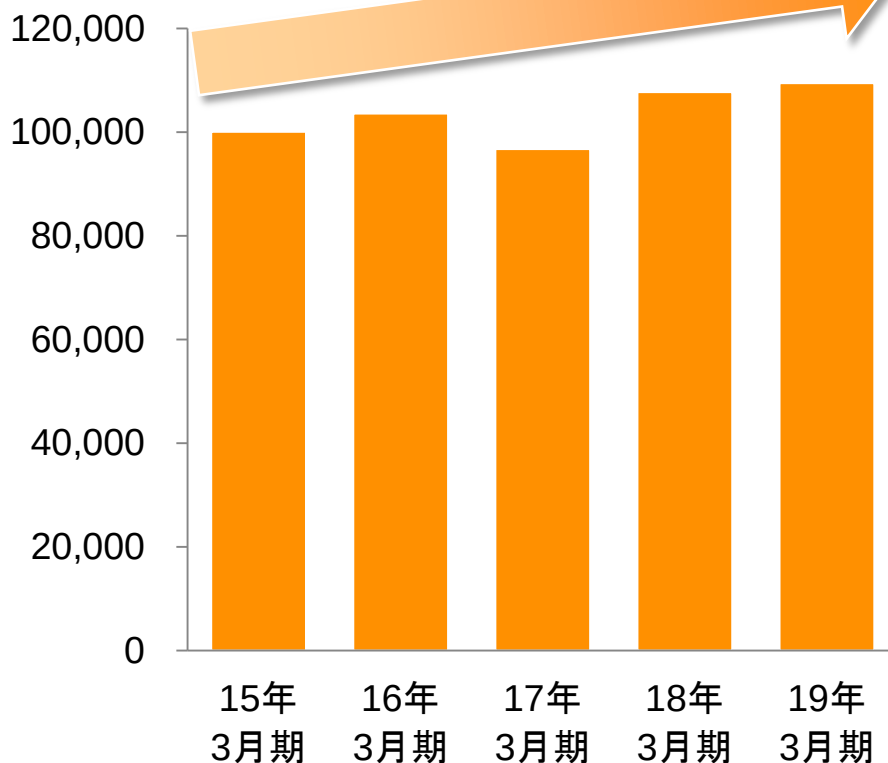
※ 倉庫移転補償金等を含む

売上高・営業利益の上期実績推移

前年比では営業利益減少も、長期的には増加傾向

売上高

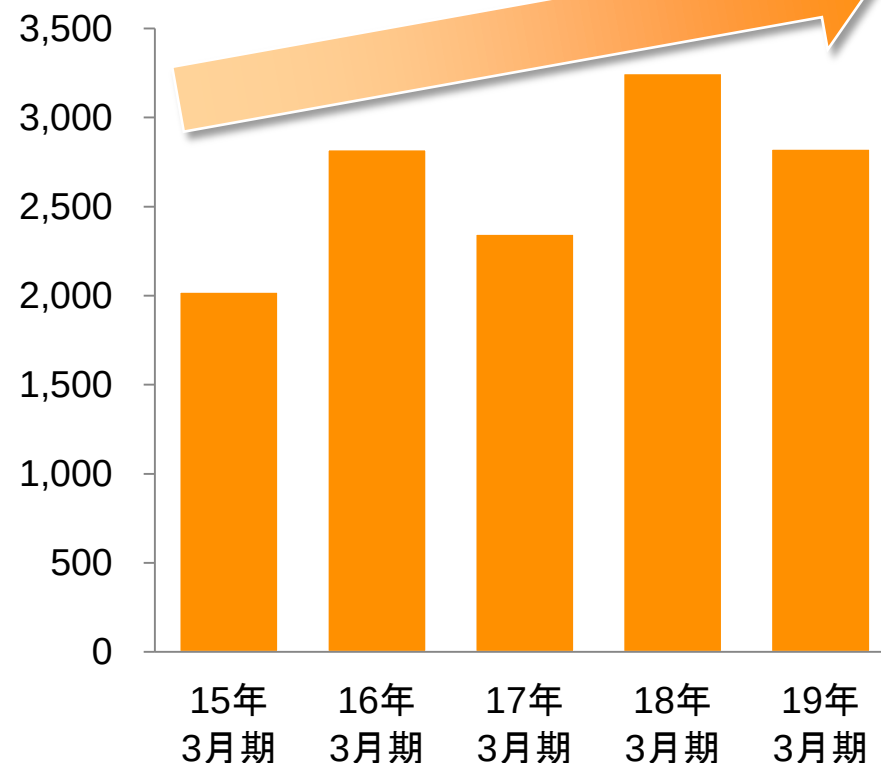
(単位: 百万円)



上期業績

営業利益

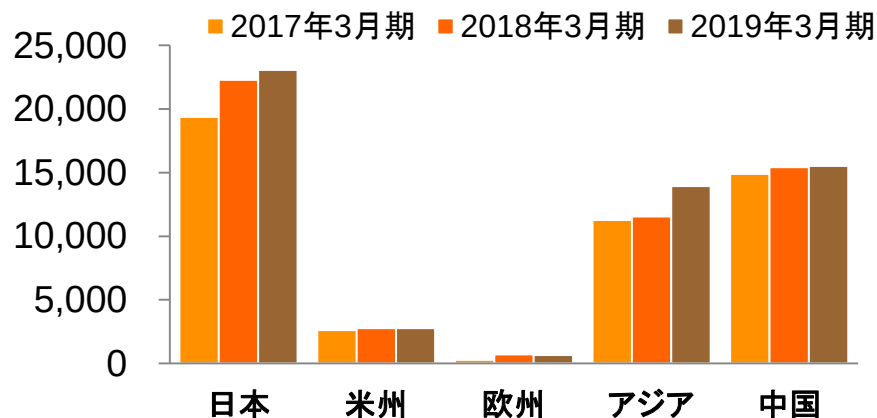
(単位: 百万円)



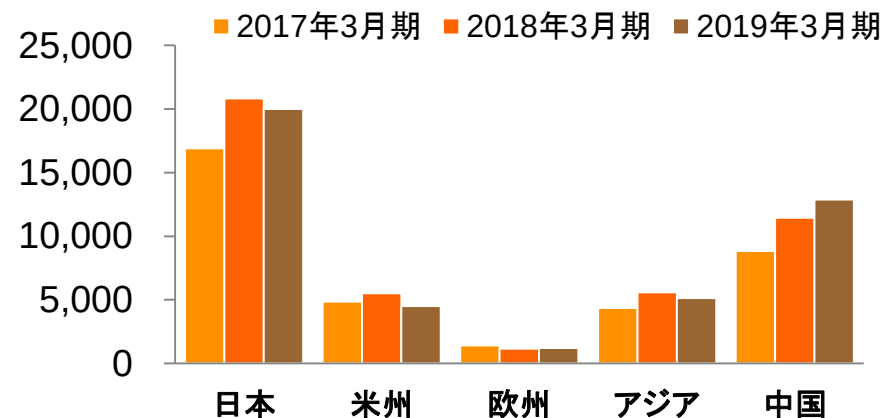
上期業績

全般的には堅調な取扱い物量を維持

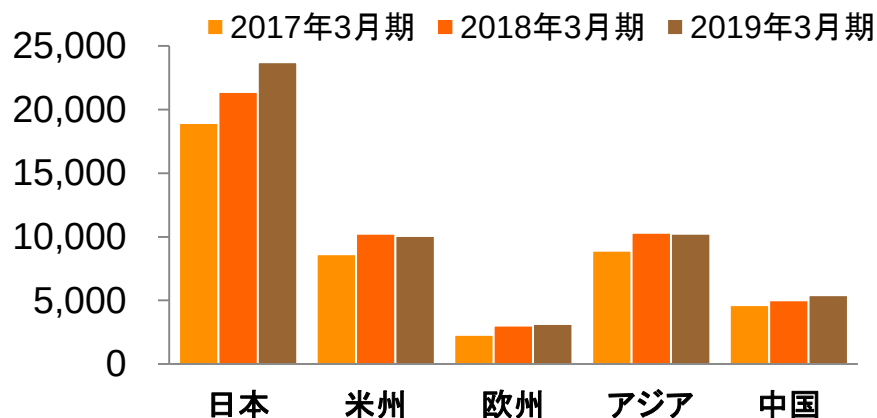
海上 輸出(TEU)



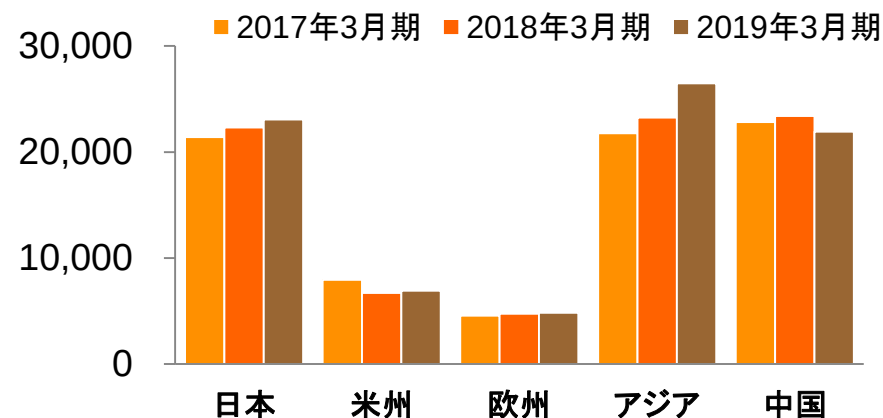
航空 輸出(TON)



海上 輸入(TEU)



航空 輸入(件)

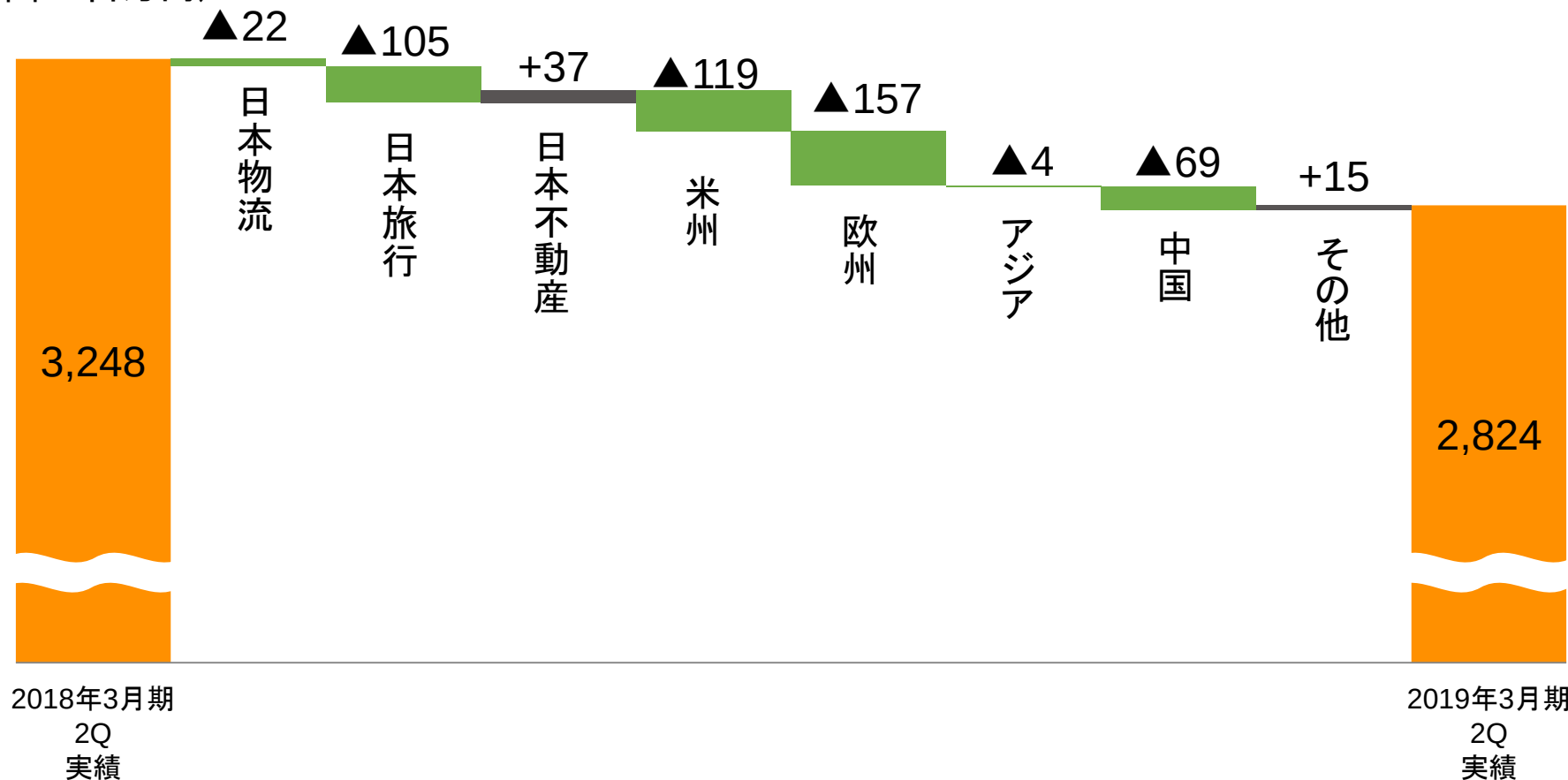


2019年3月期第2四半期 営業利益増減

欧米ではフォーワーディングが軟調

アジア・中国では倉庫拡張に伴う費用負担が先行

(単位: 百万円)



営業利益の増減要因分析

		2019年3月期 第2四半期 実績	
(単位: 百万円)		前期比	要 因
日本	国内物流	▲22	退職給付債務、税関システム償却費用、台風被害発生
	国内旅行	▲105	人材確保費用増加、低運賃の近距離取扱い増加
	国内不動産	37	商業施設の賃借契約が安定的に推移
	小計	▲90	
海外	米州	▲119	倉庫業務は堅調も、試作車などのスポット貨物減少
	欧州	▲157	英国車種減少による取扱い減
	アジア	▲4	アセアン域内は堅調な荷動き持続
	中国	▲69	倉庫移転にかかる費用負担発生
	小計	▲349	

2019年3月期 通期計画

~下期は回復基調~



2019年3月期 通期計画 サマリー

取扱物量は好調を持続、売上も計画通り増加する見通し
営業利益は自然災害の影響あるも、上期の落ち込みからの回復を見込む

(単位: 百万円)	2018年 3月期	2019年3月期					
	実績	期初計画 (5月9日発表)	修正計画 (11月6日発表)	計画比		前期比	
				(%)	(額)	(%)	(額)
売上高	216,924	222,000	222,000	-	-	102.3%	5,076
営業利益	6,389	6,400	5,800	90.6%	▲600	90.8%	▲589
営業利益率	2.9%	2.9%	2.6%	▲0.3P	-	▲0.3P	-
経常利益	6,869	6,900	6,300	91.3%	▲600	91.7%	▲569
当期純利益	5,210 ※	4,300	4,100	95.3%	▲200	78.7%	▲1,110

※ 倉庫移転補償金等を含む

2019年3月期 地域別通期計画(営業利益)

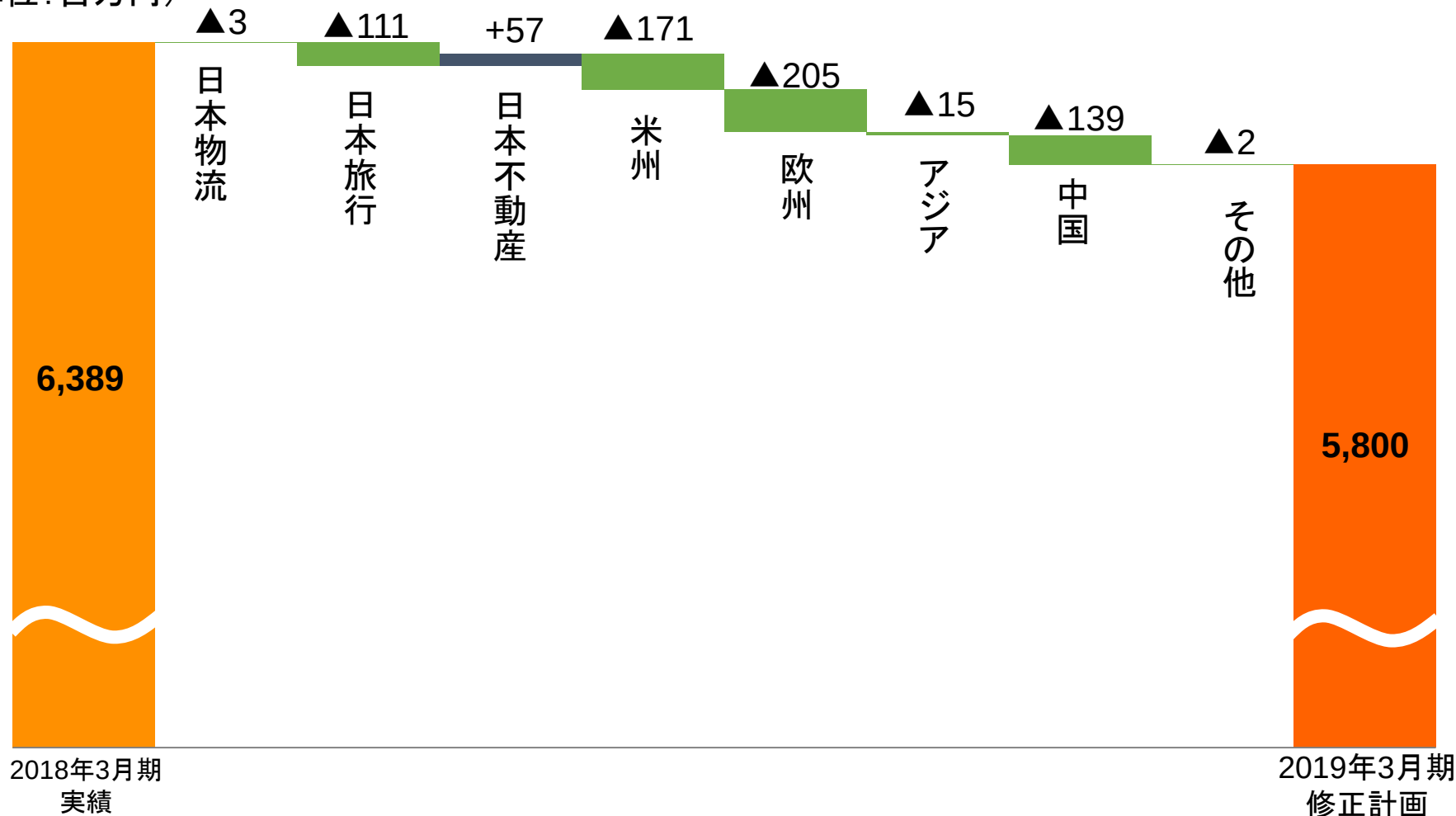
(単位:百万円)	2018年3月期	2019年3月期			
	実績	期初計画 (5月9日発表)	修正計画 (11月6日発表)	期初計画比 (額)	前期比 (額)
日本物流	2,547	2,467	2,544	77	▲ 3
日本旅行	799	759	688	▲ 71	▲ 111
日本不動産	770	770	827	57	57
米 州	244	324	73	▲ 251	▲ 171
欧 州	242	202	37	▲ 165	▲ 205
アジア	1,088	1,158	1,073	▲ 85	▲ 15
中 国	574	624	435	▲ 189	▲ 139

※ 数値は、各地域の業績を分かりやすく説明するための社内集計値(連結調整前)

2019年3月期 計画 営業利益増減

日本・アジアの好調な荷動きを背景に、回復基調にのせる

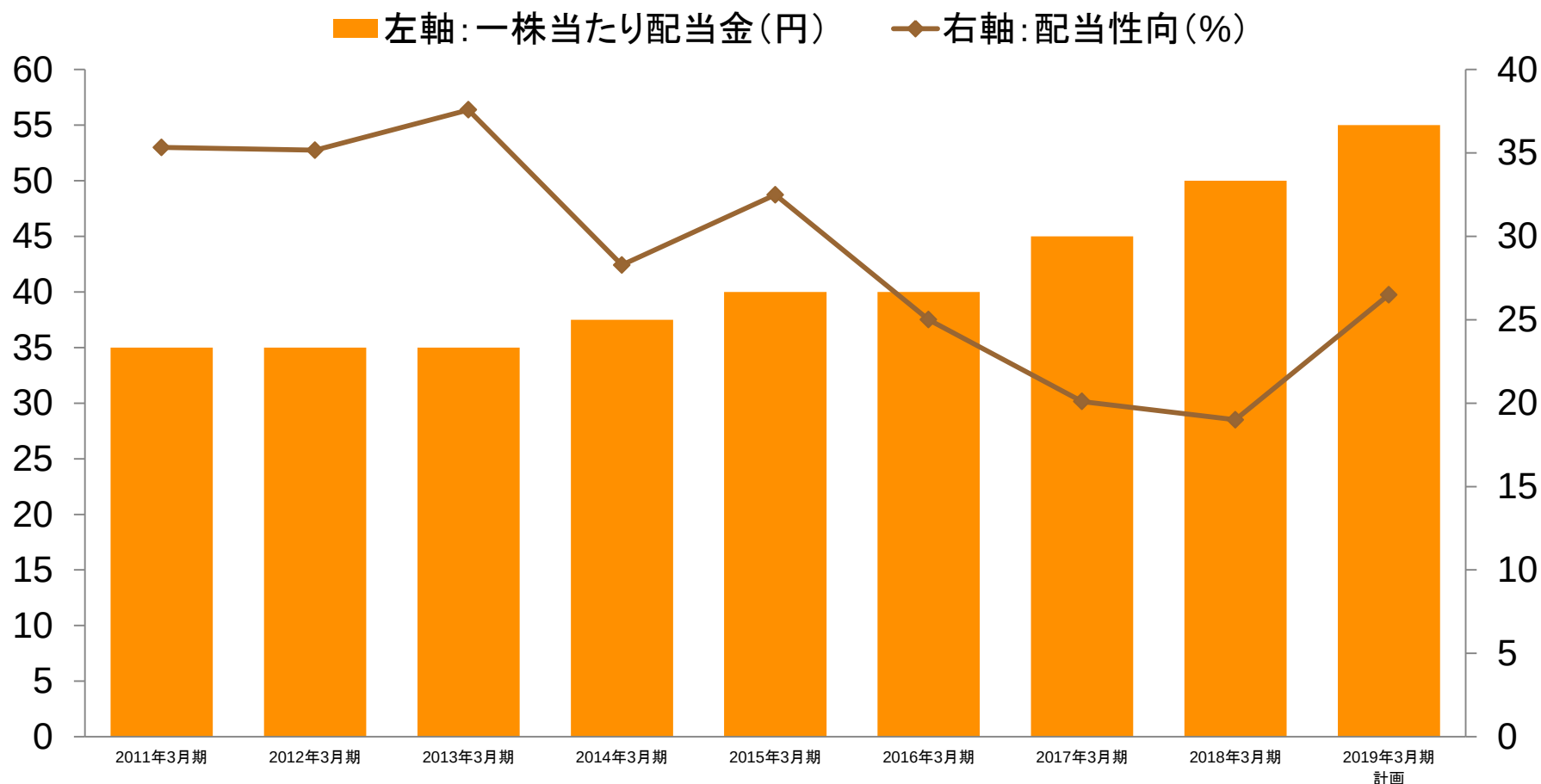
(単位:百万円)



強みの更なる強化で確実に稼ぐ体制に

日本	完成車輸出の取扱い拡大 料金改定や効率化による収益力を強化
米州	米国倉庫拡張で好調分野を更に伸長 メキシコで非自動車事業を拡大、事業基盤の多様化実施
欧州	英国自動車事業の拡大と深耕化 ドイツ倉庫事業の拡大
アジア	グローバルアカウント顧客への営業強化 新倉庫の収益化急ぐ
中国	倉庫事業の拡大

株主への利益還元の充実に努め、2019年3月期は5円増配の55円を見込む



(注) 2017年10月1日を効力発生日として普通株式5株につき1株の割合をもって株式併合を実施し、株式併合を考慮した金額を記載

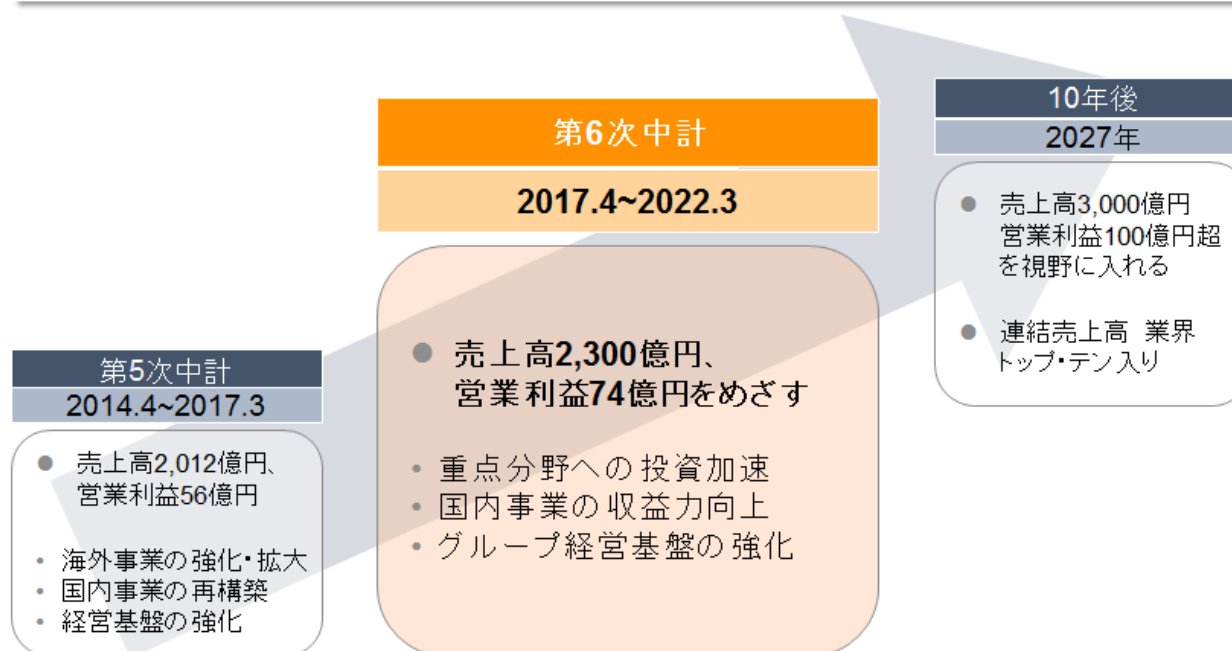
中期経営計画の進捗状況

~計画値 営業利益74億円を堅持~



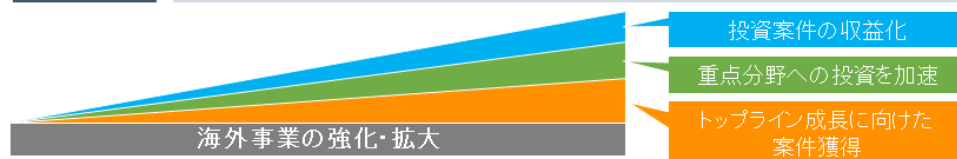
第6次中期経営計画の位置づけ

- 10年後を見据えた新たな課題への挑戦 海外事業の更なる拡大



第6次中計(17年4月~22年3月)の概要

基本方針	「グローバル・ロジスティクス・サービス・プロバイダー」 ~世界最高品質の物流企業への更なる進化~
期間	2017年4月~2022年3月(5年間)
重点施策	● 重点分野(自動車関連、化学品・危険品、食品物流) ● 国内事業の収益力向上 ・ 物流施設の再編 ・ 業務効率化の追求 ・ 物流事業・旅行事業の連携強化 ・ AIを活用した提案型営業の推進 ● グループ経営基盤の強化 ・ ガバナンスの強化とコンプライアンスの徹底 ・ 人材の確保と育成 ・ 資金の効率化などの財務体質の強化



2018年5月25日開示
決算説明会資料

重点分野の進捗

- 投資は計画通り進捗
- 自動車関連を軸に収支は堅調に推移

国内事業の収益力向上

- 業務フローの見直しによる業務量削減
- RPAの推進で事務作業の自動化着手
- 作業現場のKPI導入で保管効率の見える化実施

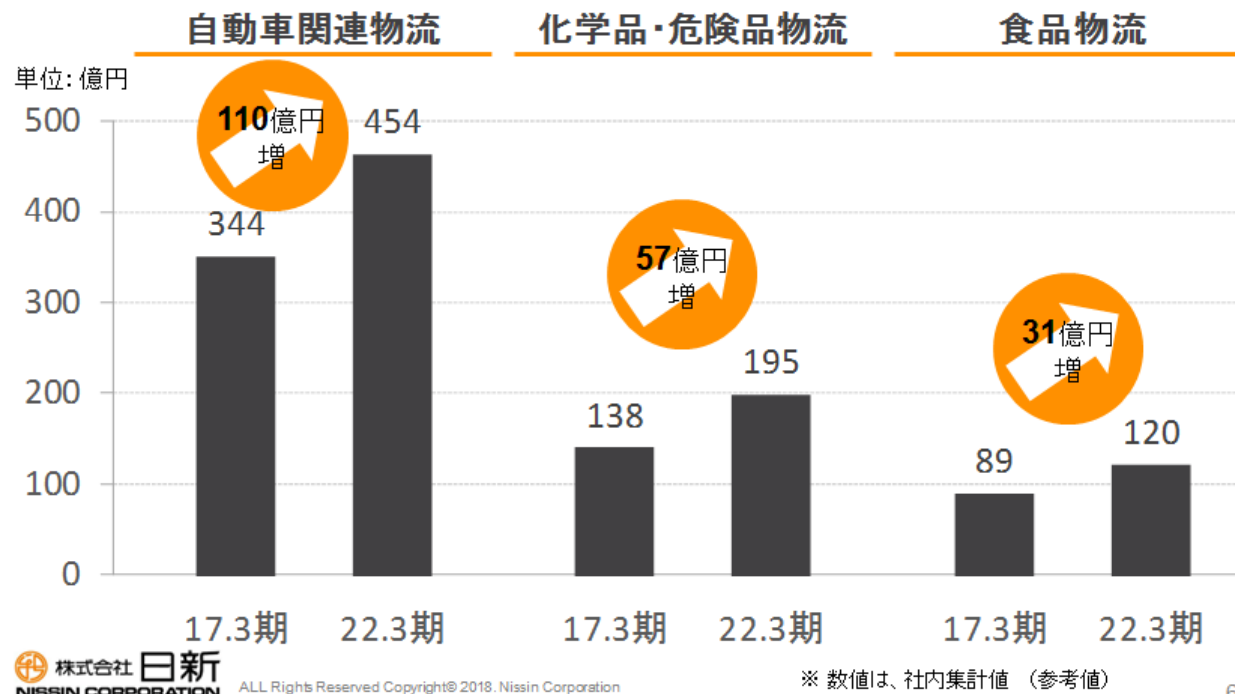
グループ経営基盤の強化

- リスク対応の強化
- 内部監査の強化
- 企業行動憲章の改定と協力会社まで含めた企業理念の周知徹底
- シェアードサービスの導入
- 決算期の統一

中計成長の骨格となる3分野は順調に成長

第6次中計の重点分野別の売上高目標値

■ 自動車関連に加え、成長分野の化学品・危険品、食品の拡大を目指す



自動車関連物流

- アジア域内輸送で成果

化学品・危険品物流

- 国内満床、海外展開加速

食品物流

- グローバルアカウント戦略の強化

2018年5月25日開示
決算説明会資料

2019年3月期 第2四半期決算実績

~物量増加で増収も、一過性費用等で減益~

2019年3月期 通期計画

~下期は回復基調~

中期経営計画の進捗状況

~計画値 営業利益74億円を堅持~



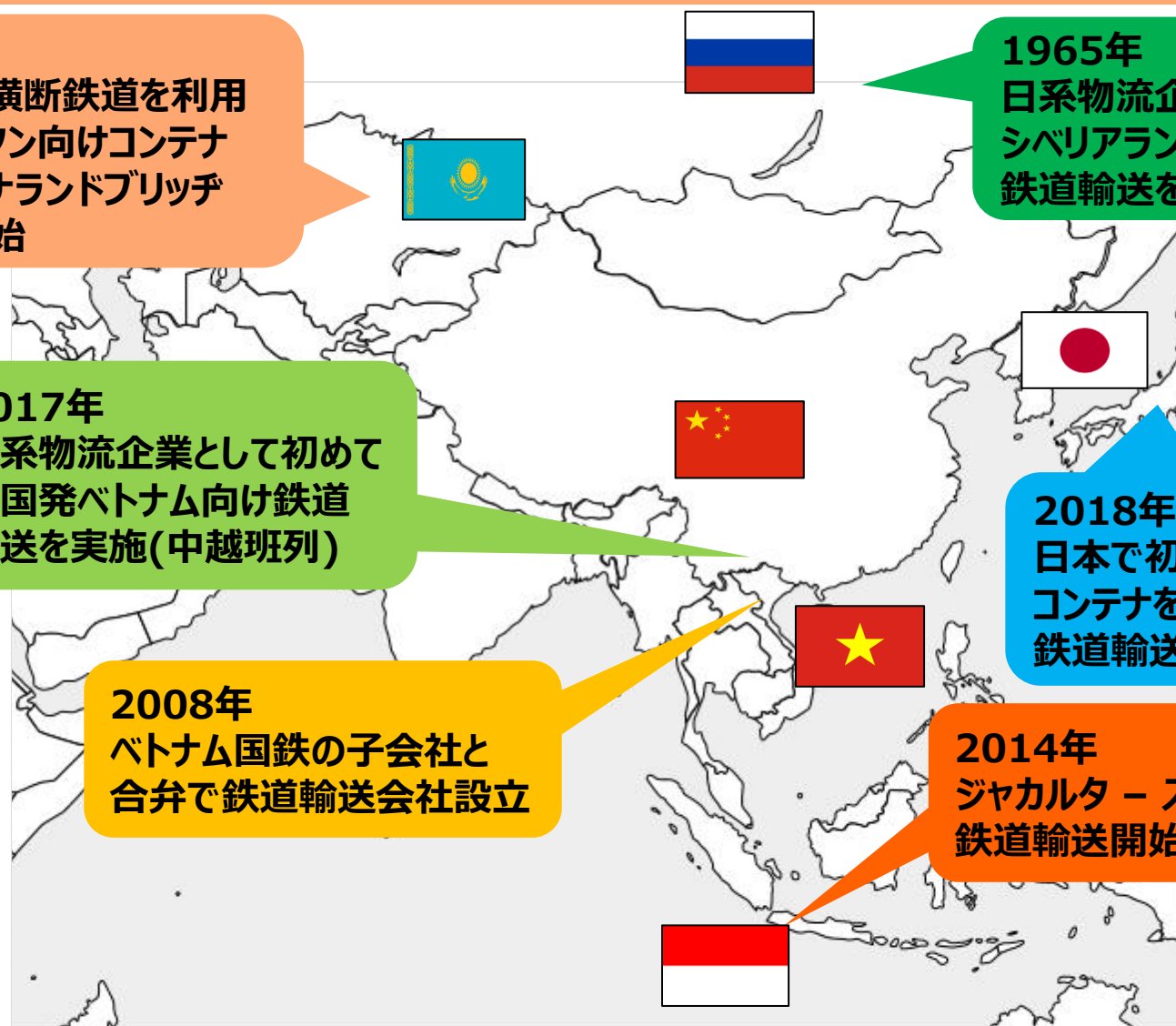
ユーラシアの鉄道輸送サービス



●シベリア横断鉄道のブロックトレイン(撮影：ロシア鉄道)●



日新は鉄道輸送のパイオニア



1992年
日本発中国横断鉄道を利用
したカザフスタン向けコンテナ
輸送、チャイナランドブリッジ
サービスを開始

1965年
日系物流企業として初めて
シベリアランドブリッジで
鉄道輸送を開始

2017年
日系物流企業として初めて
中国発ベトナム向け鉄道
輸送を実施(中越班列)

2018年
日本で初めて中欧班列の
コンテナを使った日中欧
鉄道輸送を実施

2008年
ベトナム国鉄の子会社と
合併で鉄道輸送会社設立

2014年
ジャカルタ - スラバヤ間で
鉄道輸送開始

鉄道輸送を取り巻く外部環境として4つご案内申し上げます。

①第3のルートとして注目

日本から欧州向けの輸送は海上一辺倒と言う状況ですが、地政学的リスクの観点より、事業継続のための代替輸送手段として見直されている。

②EPA(Economic Partnership Agreement)

今年、日EU経済連携協定が署名され、来月には欧州議会で採決される見込みですが、今後、日EU間の物量増加が見込まれる。

③エコ物流

鉄道輸送はCO2排出量が他の輸送モードに比べて少なく、特にシベリア鉄道はオール電化されている為、削減効果が高い。

④国交省の『シベリア鉄道の利用促進』を目的とした実証事業

2016年12月にプーチン大統領が来日したことにより、2017年度から同省はシベリア鉄道輸送に予算を割いてプロモーションを行っている。

① 国際鉄道推進室の設置

ユーラシア全土に亘る日新の鉄道事業を一元管理することを目的として、2018年4月から本社事業戦略部内に設置。

② 日本トランスシベリヤ複合輸送業者協会の活動

日新は1975年に設立された同協会の幹事会社として会長職、事務局を務めており、ロシア鉄道、及び国交省との連携によりシベリアランドブリッジの欧州再接続に取り組んでいる。

③ あらゆるテスト輸送の実施

- 『日中欧SEA & RAIL一貫輸送サービス』(商標登録出願中)
2018年6月に横浜港から連雲港経由でハンブルグまで輸送。
- シベリア鉄道輸送サービス(『ユーロシアエクスプレス』商標登録2018年8月)
- 2018年8月、日系大手飲料メーカーの貨物を神戸港からボストーチニ
経由でモスクワまで**15**日間で輸送！
- 2018年11月、日系大手建機メーカーの貨物を横浜港からウラジオストク
経由でモスクワ近郊都市までテスト輸送実施中。

ベトナム南北鉄道のご紹介

環境負荷軽減に対する社会の需要の高まり。

- ・ベトナム国鉄との鉄道輸送事業合併会社を設立(2008年)
- ・環境意識の高い顧客からの需要増加
- ・ブロックトレインの運行開始 (2013年)
- ・更なる投資の推進



当社開発のカーワゴン



当社コンテナによるブロックトレイン

本資料には、当社グループの将来における売上高・利益等の業績に係る計画や見通しが含まれております。

これらは、当社グループが現時点にて把握、入手可能な情報からの判断および想定に基づく見通しを前提としており、実際の業績等は大きく異なる場合があることを予めご了承ください。